

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●田辺裕信騎手がJRA通算1万2000回騎乗を達成

1月5日(水)の1回中山1日・第4レースでウインダに騎乗した田辺裕信騎手(美浦・フリー)は、史上30人目、現役では18人目となるJRA通算1万2000回騎乗を達成しました。

●岡田稲男調教師がJRA通算400勝を達成

1月5日(水)の1回中京1日・第3レースではメイショウユズルハが1着となり、同馬を管理する岡田稲男調教師(栗東)は、現役43人目となるJRA通算400勝(延べ4961頭目)を達成しました。

●アイスジャイアント、ピクシーナイトが故障

2021年JBC2歳優駿(門別・JpnⅢ)の勝ち馬アイスジャイアント(牝3歳/美浦・高柳瑞樹厩舎)は、右第3中手骨鱗裂骨折を発症していることが判明しました。今後3か月以上の休養を要する見込みです。2021年スプリンターズS(GⅠ)の勝ち馬ピクシーナイト(牡4歳/栗東・音無秀孝厩舎)は、左橈側手根骨板状骨折を発症していることが判明しました。休養期間等については未定です。

●コントレイル、モズスーパーフレアの競走馬登録抹消

2020年に皐月賞(GⅠ)、東京優駿(日本ダービー)(GⅠ)、菊花賞(GⅠ)を制して中央競馬クラシック三冠を無敗のまま達成したコントレイル(牡4歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算11戦8勝)、2020年高松宮記念(GⅠ)などの勝ち馬モズスーパーフレア(牝6歳/栗東・音無秀孝厩舎/JRA通算27戦7勝・地方2戦0勝)、2019年報知杯フィリーズレビュー(GⅡ)の勝ち馬ノーワン(牝5歳/栗東・杉山佳明厩舎/JRA通算26戦2勝)、2020年さきたま杯(浦和・JpnⅡ)などの勝ち馬ノボバカラ(牡9歳/栗東・森秀行厩舎/JRA通算36戦7勝・地方21戦2勝)、2019年みやこS(GⅢ)の勝ち馬ヴェンジェンス(牡8歳/栗東・大根田裕之厩舎/JRA通算33戦8勝・地方1戦0勝)は、2021年12月21日(火)までに競走馬登録を抹消されました(年齢は抹消時)。コントレイルは北海道安平町の社台スタリオンステーションで種牡馬、モズスーパーフレアは北海道浦河町の谷川牧場で繁殖馬、ヴェンジェンスはJRA馬事公苑で乗馬となり、ノーワンは繁殖馬となる予定ですが繋養先は未定。ノボバカラは地方・園田競馬へ移籍しています。

●2021年度JRA賞 調教師・騎手部門の受賞者決定

2021年度JRA賞の調教師・騎手部門各賞が決定しました。調教師部門では最多勝利、最多賞金獲得、優秀技術の3タイトルを矢作芳人調教師(栗東)が、最高勝率は中内田充正調教師(栗東)が受賞。騎手部門では最多勝利、最多賞金獲得、MVJをクリストフルメル騎手(栗東・フリー)、最高勝率は川田将雅騎手(栗東・フリー)が受賞し、最優秀障害騎手は森一馬騎手(栗東・松永昌博厩舎)、最多勝利新人騎手は小沢大仁騎手(栗東・松永昌博厩舎)となりました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●東京2歳優駿牝馬はスピーディキック【各地の主要2歳重賞】

東京2歳優駿牝馬(12月31日、大井、1600m、牝馬)は、これが北海道から浦和への移籍緒戦だった5番人気のエーデルワイス賞の覇者スピーディキック(父タイセイレジェンド)が後方から徐々に追い上げ、直線半ばで抜け出して4馬身差の圧勝を収めました。金の鞍賞(12月28日、高知、1400m)は、4番手追走も行きつ振りが悪かったファーストリッキー(牡、父コパノリッキー)がゴール前で何とか差し切り、単勝1.2倍の支持に応えてJRA(3戦未勝利)から高知に転入後5連勝を達成。ライデンリーダー記念(12月30日、笠松、1400m)は、4番手から3コーナー過ぎに先頭に立った単勝1.3倍で1番人気の金沢からの遠征馬エムティアンジェ(牝、父マクフィ)がそのまま押し切り、4度目の重賞制覇。園田ジュニアC(12月31日、園田、1700m)は、逃げた単勝1.2倍で圧倒的人気の兵庫若駒賞馬ガリバーストーム(牡、父アジアエクスプレス)が後続を3馬身半引き離し、デビュー以来の連勝を5に伸ばしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●北米競馬統計～イントゥミスチーフが首位種牡馬

2021年の北米競馬における各種統計がまとまりました。北米チャンピオンサイアーの座についてはイントゥミスチーフ(2005年生まれ、父ハーランズホリデー)でこれで3年連続の戴冠。G1ブリーダーズCダートマイルを制したライフイズグッド、G1カーターH優勝のミスチヴィアスアレックス(今春から日本軽種馬協会静内種馬場で供用)など4頭が北米でG1に優勝しました。取得賞金の2441万1267ドル(約27億8288万円/1ドル114円で換算)は一昨年自身がマークした記録を塗り替える北米史上最高記録です。騎手は、J.ロザリオ騎手(36歳)が取得賞金3294万4478ドル(約37億5567万円/1ドル114円で換算)で初の首位。ニックスゴーで制したブリーダーズCクラシック、ペガサスワールドC、ホイットニーS、アイドルのサンタアナHを含むG1・9勝をあげました。調教師は、B.コックス調教師(41歳)が北米レコードとなる取得賞金3183万2345ドル(約36億2889万円/1ドル114円で換算)で初のチャンピオン。上記ニックスゴーで制した3つのG1や、エッセンシャルクオリティで優勝したベルモントS、トラヴァーズSを含む10のG1を制しました。